

研修報告書 No.19

研修先： 梶原病院

1月の1カ月間、高知県高岡郡梶原町にある、国保梶原病院で地域医療研修を行いました。

梶原病院のある梶原町は、高知県北西部、標高410mに位置し、愛媛県との県境にあります。町の面積の91%を森林が占め、最大標高1455mにもなる四国カルストに囲まれた山間にあり、人口は3000人ほどです。高知市内からは車で90分、公共交通機関を使えば2時間ほどかかる場所に位置しています。夏は涼しく、冬は寒い地域で、実際に私が到着した翌日からは雪が降り始めました。しかし、建築家である隈研吾さんの建築物をはじめ、町内にある住居や公共施設は木造が多く、周囲の山や川の自然も相まって、雪が積もっていても不思議と暖かみを感じました。

梶原病院は町唯一の病院で、梶原町の地域医療を担っています。外来としては、内科、小児科、整形外科、眼科、皮膚科の枠があります。また、救急病院として24時間急患を受け入れており、必要があれば、救急車やドクターヘリを使って高次医療機関へ搬送をしています。常勤の先生方は、内科を中心に、整形外科や皮膚科的な疾患も診ていました。上部内視鏡を施行したり、外科的な処置を行ったり、夜間救急の際には自身でCTやレントゲンの撮像も行っていました。私が普段研修している病院では、夜間でも専門科の先生や専門の医療スタッフの方が当直をしていて、すぐに併診や検査をお願いしています。自分が普段、如何に甘えているかということのを再認識し、どんな疾患でも自身で診察、検査、治療方針、今後のフォローまで全て行っている、梶原病院の先生方に尊敬の念を抱きました。

研修では、初診の患者さんの対応や、救急のファーストタッチ、外来と入院患者さんの創処置などを行いました。自分が普段研修している病院ではあまり経験できないような、入院中の褥瘡に対する創処置では、創部の状況を判断し、上級医の先生と相談して、その患者さんに最適な被覆材と外用薬を選択していきました。毎日、自分の目で経過を見ることで、実施した処置とその結果、治癒過程を確認し、状態に合わせて適切な処置を行うことの大切さを学びました。

今回の地域研修で一番印象的だったのは、地域の保健、医療、福祉、介護の連携です。梶原病院と同じ敷地内には保健福祉支援センターが併設されており、毎週ケアプラン会という、地域住民の入院患者さんについて、医療と行政の立場から退院後どうしていくかを話し合う場を設けていました。同様に、月に一度、施設への入所の検討などを行う、地域ケア会議を行っていました。これらの会議には、医療・行政・福祉・介護など多職種の方々が参加しており、患者さんのADL、家族構成や社会的問題など各職種の情報を共有することで、入院中から退院後の方針を総合的に考え、退院先や、在宅サービスの必要性を検討していました。入院中の患者さんでなくとも、退院後の方や、在宅サービス利用中の方、梶原病院かか

りつけの方で、環境や病状の変化があり、今後新規で必要となると思われるサービスの検討、外来受診時に注意すべきことなどを共有していました。町内の保健と医療と福祉が協力し、町全体で町民の健康生活を包括的に支援していることが分かりました。

普段自分が住んでいる地域は、医療機関に困ることもなく、病院へ行けば充実した医療資源があり、治療の選択肢もたくさんあります。科や疾患で細分化された専門の先生たちによって、自身の抱えている疾患に特化した治療を受けることができます。一方で梶原町では、多くの専門科の先生が常勤してはおらず、すぐに手術可能な環境や MRI などの精密画像検査があるわけではありません。しかし、かかりつけとなり、緊急時には救急病院となってくれる病院があり、地域包括ケアの面では、保健、医療、福祉、介護が連携して、地域住民の生活を支えてくれる体制がありました。その地域に合った様々な医療の形があるのだと、実際に体感することができました。

はじめは慣れない環境で上手くやっていけるだろうかと不安でしたが、梶原町の方々は皆朗らかで優しく、充実した日々を過ごすことができました。毎日お忙しい中でも質問に丁寧に答えて下さり、救急対応などの相談に乗って下さった上級医の先生方をはじめ、処置のサポートや、診療所への送迎もして下さった看護師の方々、病院スタッフの方々、1 カ月間大変お世話になりました。誠にありがとうございました。